

学校だより

平成28年7月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



入学式



新入生オリエンテーション



新入寮生歓迎BBQ

- 校長挨拶
- 学科紹介
- 高専プロコン鳥羽大会
- 国際交流
- 学生活動の紹介
- 設備紹介
- 新任教職員紹介
- 教職員の人事異動
- 学校通信

校長挨拶



校長 新田 保次

平成28年度の入学式も無事終えることができ、この学校だよりが発行される頃は、夏休み間近になっているかもしれません。今年度は、入学志願者も昨年度より多く、新入生も本科、商船学科44名、電子機械工学科45名、制御情報工学科45名の合計134名と予想以上多くの学生を迎えることができました。専攻科生産システム工学専攻8名の新入生を併せて142名の入学生となり、心からうれしく思っています。

また、昨年度も学生の活躍は目覚しく、各種コンテストでは、プログラミング関係で、プロコン全国大会特別賞、スマートフォンアプリ最優

秀賞・優秀賞、高校・高専気象観測機器コンテスト優秀賞・特別賞などを受賞するとともに、パソコン甲子園2015本選出場も果たしました。体育系では、少林寺拳法部がインターハイに出場し、これまた校長の喜びになっています。

ところで、新入生は4ヶ月も過ぎ、中だるみ状態が生じている学生もいるかと思いますが、私が入学式で述べた内容を以下要約しますので、今一度、思い出していただき、学業生活にちよつとでも”活“を入れていただけたらありがたいと思います。

本校は、非常に長い歴史のある学校です。本校の前身である鳥羽商船黉が、近藤真琴先生によって1881年に創設されて以来、今年で135年、そして1967年に国立高等専門学校となつてからは49年になります。高専は創立当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に对应、中学卒業生を受け入れる5年一貫教育を基本としつつも、大学編入、専攻科の設置、学校の再編統合などを進め、高等教育機関としての性格をより強め、実践性と創造性を備え

た地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成に努めるようになりました。現在は、「進化する高専」として、次なる50年に向けて様々な取り組みを始めているところです。

本校では全ての学生が心すべき三つの教育目標を掲げています。

- 一つ、人間性豊かな教養人となること。
- 二つ、創造性豊かな技術者となること。
- 三つ、国際性豊かな社会人となることです。

言い換えれば、広い視野をもった優秀な技術者となつて社会で活躍して欲しい。さらには、人間として、何が正しいかを判断して行動できる、社会に役立つ立派な人に育つて欲しいということです。

そして、入学生の多くは、2000年の記念すべき新ミレニアムに生まれましたが、皆さんが社会の中堅として活躍する時代は、かつて経験したことのない人口減少高齢社会です。この社会は、今までの経験が通用しない挑戦しがいのある社会でもあります。ある社会学者は、これからの社会は、物質・エネルギーの生産が社会を引っ張ってきた社会か

ら、情報が大きな価値を持つ現代を経て、時間を創り、マネジメントする社会になると言っています。一日24時間、人生100年の時間を、どんなふうにも、どのようにして使うかが問われる社会になります。そして、そこには、時間を扱う新しい技術が必要になります。

皆さんには、変化する社会の動きに目を配りつつ、新しい社会づくりに貢献できる技術について、学校での学びを活かしていただきたいと思っています。そして、学校生活においては、授業の予習復習に課外活動、そして社会貢献などと、あなたの時間をうまく使う技術を身に付け、あなたの自身の成長、発達につなげていただきたいと思っています。

最後に、これからの高専生活を送る上で大切にしていただきたいことを述べ締めくくりたいと思います。それは、最近の学生の状況を見ると心配なことがあります。自分で学習する時間が極めて少ないことです。そうなるとう順調に進級できない人が出てきます。そこで、まず自分で学習する時間をしっかりと確保し、生活を規則正しく送ってほしいと願っています。

商船学科について



商船学科長・機関コース主任

伊藤 友仁

商船学科の就業期間は5年半で、その間に3回の大型練習船実習が行われます。具体的には、2年生の3月（1か月）、4年生の後期（5か月）および6年生の前期（6か月）の、合計12か月間です。また、商船学科は国土交通省が認定した船員養成機関で、外航船員に必要な3級海技士の資格を取得することができます。

現在、日本人外航船員の数は決して多くありません。しかし統計上、日本の船会社が所有する船（日本のコントロール船）の数は世界のトップクラスで、世界の海上貨物の約10分の1が日本に出入りしています。今後、税制面の改革等（国際的な税制面のイコールフィットイング等）が進めば、日本の外航海運の更なる発展が期待できます。一方、内航海運が担う国内長距離輸送では、自動車や鉄道からエコな海上輸送へのモーダルシフトが進み、RORO船やフェリーの船員の需要が増加します。つまり、今後は外航、内航ともに船員の需要は増えることが予想されます。日本人船員の付加価値を高めることは、船員数の増加に直結します。つまり、本校で海事技術者としての基礎をしっかり身に付けた学生は、必ず船員になれるということです。

商船学科の学生に特に望むことは、学業を通じて海事技術者になるための基礎を作ることです。特に低学年は、基礎科目（英数国理社など）を、毎日勉強する習慣を身に付けてください。課外活動などで体を鍛え、日々元気に過ごしてもらいたいと思います。



本校の練習船「鳥羽丸」

商船学科航海コースの特徴（免許講習等について）



商船学科航海コース主任

片岡 高志

商船学科航海コースは、三級海技士（航海）の養成施設として登録認定されており、本校所定の課程を修了すれば、三級海技士（航海）の筆記試験が免除されます。外航の大型船舶に航海士として乗り組むための必須資格ですが、三級海技士の資格を取得するためには、筆記試験の免除対象となる授業とは別に、所定の講習（免許講習）の履行が義務付けられており、航海コースは機関コースに比べて履修科目及び時間数が多く設定されています。

航海コース学生を対象に行っている免許講習には、レーダ観測者講習（24）、レーダ・ARPAシミュレータ講習（14）、救命講習（21）、消火講習（10）、上級航海英語講習（77）があります。括弧内は時間数で、学科と実技の合計時間を表しています。また、免許講習とは異なりますが、昨年から新たにECDIS（電子海図情報表示装置）講習が40時間義務付けられました。他の履修科目に変更はありませんので、新たに40時間の授業が追加されたと言えます。

レーダ関係の二つの免許講習とECDIS講習だけでなく、実に80時間近く履修することになり、これは三単位の授業に相当します。航海コースの学生の皆さんは、在学中に多くの講習の課程を経て、三級海技士（航海）の資格取得に臨むこととなります。大変ですが、船長になる夢を叶えるためと思って頑張ってくださいと思います。

電子機械工学科の紹介



電子機械工学科長

古森 郁尊

電子機械工学科の学科長の古森です。今年度もよろしく願います。電子機械工学科は昭和60年に発足し、これまで多くの卒業生を社会に送り出してきました。いろいろな道を歩んでいる卒業生が遊びに来てくれて、近況を知らせてくれることは何よりの楽しみです。

本学科が、目立たないけど「あたりまえの日常を支えることに誇りを持つる人材」の育成を、心がける学科であることは変わりません。また、ロボットコンテストへの積極的な参加も変わりませんが、時代の流れと共に、学習方法の変更や新しいカリキュラムの導入、地元への就職率の向上などに重点的に取り組んでいく必要があると考えています。

そこで、まず専門科目に関する基礎知識の定着を図るため、講義と実験を組み合わせた授業形態を2年生と次期3年生の一部の専門科目に導入しました。これは、通常2時間で終わる講義を4時間連続で行うことで、前半に講義を受け、後半に講義内容を実験を通して確かめる授業形態です。次に、地元企業への就職支援と新しいカリキュラムの導入を同時に行うプログラムとして、就職や進学を控えた4年生の後期のカリキュラムに「航空機産業やロケット技術に特化した特別講義」を今年から実施する予定です。講師は、第一線で活躍している大学の先生と、地元関連企業の技術者の方々が構成されています。さらに、地元企業への就職支援については、新聞でも紹介されましたが、学外で行われた航空機産業セミナーに4年生がほぼ全員参加するなど、地元企業との接点より多く持つ機会を充実を図りたいと考えています。

制御情報工学科の取り組み



制御情報工学科長

江崎 修央

制御情報工学科では、昨年度よりPBL型の学習機会を多く設けるカリキュラムで授業を実施しています。特に、3・4年生の工学実験においては、外部コンテストに沿ったシステム開発や地域の問題解決を目指した取り組みを行っています。

昨年は、学外コンテストに10チーム以上が参加しました。学生スマートフォンアプリコンテストでは、最優秀、優秀賞を受賞、気象観測機器コンテストでも優秀賞、高専プロコンでは特別賞を受賞するなど、外部から多くの評価を得ています。

この工学実験では、学年関係なくチーム編成を行い、議論、開発、発表を実施していきます。これまでの机上の学習では得られなかった実践的な知識・技術の習得はもちろん、コミュニケーション能力、リーダーシップの育成にも役立っています。

今年度は、2年生に対して楽天と協働して「楽天口学校」を開催しています。旅荘「海の蝶」をターゲットにビジネス視点を含めたWEBサイトを制作し、実際に販売します。さらに電気情報実習を通じて、低学年から「ものづくり」の機会も用意します。

また、昨年度末には学生が主体となってハッカソン（短期間でのアプリ開発イベント）を実施し、30名以上の学生がアプリ開発・プレゼンテーションを楽しみながら行いました。

制御情報工学科では、今後新しい企画を積極的に採用し、学生の力を伸ばしていきます。学生の皆さん、チャンスを活かして何事にも積極的に挑戦してください。



一般教育科について



一般教育科長

富澤 明

本校の一般教育において技術者としての基本的な資質と専門科目を学ぶための基礎学力を養うため、一般教育科では、次の教育目標を掲げています。

一、健康で教養豊かな社会生活を送るための基礎的な力を培う。

二、専門科目を学ぶための基礎的な力を培う。

三、多様な文化に目を向け、国際社会で活躍できる基礎的な力を培う。

本校の学生は、人文・社会系科目、自然科学系科目、保健体育、芸術及び外国語という広い分野にわたり、高等学校のレベルから大学の教養課程のレベルまで、5年間の一貫教育のもとで一般教育科目を履修します。本年度は、一般教育科所属の15名の常勤教員と12名の非常勤教員が科目を担当しています。

新しい教育課程への移行が、昨年度の入学生から始まっています。この後4年間をかけて、学年進行で新課程に切り替わります。新教育課程は、全国の高専における共通の学習項目を定めたモデル・コア・カリキュラム（MCC）に準拠しています。一般教育科目の学習内容が従来のものから大きく変わるものではありませんが、特に自然科学系の科目では、専門科目と連携して内容が考慮されたものになっています。また、新課程では「一般基礎教育」科目が新設されました。この科目は、卒業後の自己実現のために、学生が本校での学びをデザインする力を培う部分と、英語、数学、理科等の基礎学力や社会人としての教養を培う部分とで構成されていて、1年生の1年間と2年生の半期で学びます。

その他にも、高専連連携事業として学習状況調査等を実施し、調査結果を学生に還元したり、英語多読学習等、多彩な取り組みがされています。

学生の皆さんには、未来の技術者となる自身に何を求められるのか、考えながらの学習をお願いします。そして、本校での学びの環境を存分に活かしてください。

専攻科の紹介



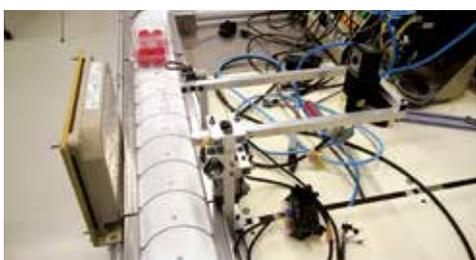
専攻科長

宮崎 孝

本校専攻科は、2年間の教育課程を修了し、学位授与機構の審査に合格することで、四年制大学を卒業したのと同等の学位を取得することができます。学位の新しい審査方式が始まり、3月に初めての修了生が出ています。

専攻科の教育では、特別研究と実験実習が柱となっています。生産システム工学専攻では、新しいPBL型FAシステムの実験が3年目となります。生産現場で使われるFA用の制御機器であるPLCを利用し実験を行っています。昨年度は、カイワレ大根の育成のための照明や気温の調整、育成棚へ出し入れをテーマに実験を行いました。今年度は、各班同じテーマとし、競技形式で実験を行っています。写真は、植物の出荷用のレーンと状態を確認する画像処理装置、タグに情報を無線で読み書きする装置です。

FAに関する技術向上のため、オムロン（株）から講師を招き、講習会を開催しています。今年度は、鈴鹿工業高等専門学校と共同で、より連携を強めて行う予定です。また、技術力を試す場として、別稿で紹介するように本校専攻科の学生が生産技術コンテストに参加しています。2年連続で優勝しており、今年度も優勝目指して学生は活動中です。



高専プロコン鳥羽大会

プロコン実行委員会 事務局長

江崎 修央



自由部門は、自由なテーマで独創的な作品をつくりあげます。また、競技部門では、三重県にちなんだ図柄を木のパズルとして出題し、回答をコンピュータで計算させ、参加学生が実際にパズルを完成させる時間を競います。

6月25日に実施された予選の結果、本校からは自由部門に「みつばちずーどローンを用いた防災減災地

図作成システム」と「HOME・LOGー鏡でつながる家族の絆」の2チーム、競技部門にも1チーム、合計3チームが参加することとなりました。

「みつばちず」は、近い将来に発生が危惧されている東南海地震が発生した際に、地域住民がドローンを活用して、被災状況を確認し対策を講じるようにするだけではなく、自動的に県や国の防災対策本部へ被災状況を伝達し、適切な連携が図れるようにする仕組みを構築します。一方、「HOME・LOG」は、家族が日常生活を送る中で鏡に備え付けられたカメラやセンサーを利用して健康状態を管理します。遠く離れて単身赴任や一人暮らしをする家族のケアも行うことで、安心して生活できる環境を整えます。

プロコン本選では、教職員のほか、制御情報工学科の3年生、4年生、5年生、学生会にも運営のお手伝いをしていただくことになっています。全国高専のなかでも3学科しかない小規模校での開催は難しいのですが、鳥羽商船高専ならではの団結力で乗り切りたいと考えています。

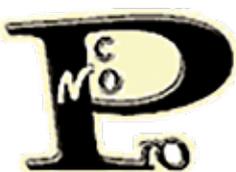
本校では、高専プロコンで多くの

成果を上げてきました。地元開催のプレッシャーに負けずに、これまで以上の成果が残せるように学生はもちろん、指導教員・技術職員、窓口業務を担当していただく事務職員が一丸となって頑張っています。ぜひ本選では会場にお越しいただき、高専学生の最高レベルの作品をお楽しみください。



10月8日(土) 9日(日)に、伊勢市観光文化会館において、本校を主管校として全国高等専門学校第27回プログラミングコンテスト(通称:高専プロコン)を開催いたします。鳥羽大会のキャッチフレーズは、学生の皆さんからの提案に基づいて「輝く真珠は僕らの発想(アイデア)」に決まりました。

高専プロコンは、課題部門、自由部門、競技部門の3部門からなります。今年の課題部門は、「スポーツで切り拓く明るい社会」をテーマにスポーツをする人、見る人はもちろん、スポーツを通じた地域振興に関するシステムを開発し発表します。



国際交流

『国際交流推進室から』

国際交流推進室長

橋爪 仙彦



毎年、新年度の始まりには春休みに行った国際交流行事の報告会を開催しています。今年度はすでに3回の報告会が開催されました。

第1回報告会では、3月にシンガポールで行ったMELキャンプ、ハワイのカウアイで行ったKCC国際インターンシップ、そして、

3月から4月中旬までシンガポールポリテクニックスの学生が本校に滞在して行われたToba ICT Projectについての報告がありました。シンガポールからの学生が参加したこともあり、発表や質疑応答も英語で行われました。

第2回報告会では、トビタテ留学JAPANに参加した2名の報告がありました。1名は三重県人材育成コースでアメリカのシアトルに半年間留学したことを発表し、もう一人は本校から豊橋技術科学大学に進学した後、ダブルディグリープログラムで1年間ドイツに留学したことを発表しました。この制度は、自分でオリジナルの留学プランを計画することができるもので、今後より多くの学生に興味を持ってもらいたいと思っています。

ます。

第3回報告会では、本校で勉強している留学生4名による発表でした。モンゴル、ラオス、インドネシアからの留学生たちにそれぞれの母国を紹介してもらいました。

そろそろ、今年度の国際交流行事の募集も始まる頃です。教室や掲示板に掲示されるポスターや案内を普段からチェックして、参加したいプログラムがありましたら、どんどん手を挙げてください。



MEL CAMPに参加した

制御情報工学科3年

服部 力斗

私は今年3月に、シンガポールで行われたMEL CAMPに参加しました。MEL CAMPとは、SMA (Singapore Maritime Academy) の学生たちと共に客船で生活し、様々な活動をするプログラムです。今回はITE (Institute of technical education)、大島商船の学生たちも参加しました。またこのプログラムの前に、SP (Singapore Polytechnic) の講師から英会話の基礎やシンガポールの英語について教わりました。

私は今回初めて海外へ行き、文化や言語の違いを知ることができました。そして英語で会話することは、難しいけど面白いということに気づきました。シンガポールの英語は訛りが強くてとても早口なので、初めのうちは聞き取れないこともありましたが、さらに自分の英語が伝わらな



いときもありました。ですが、徐々に慣れていき、少しずつ聞き取れるようになり、言いたいことも伝わるようになりました。客船の上では、船や海図に関するクイズや性格に関する講義など様々なイベントがありました。そのときは全て英語で意見交換しました。自由時間では趣味やお互いの国などについて、たくさんのお話をできたことは良い思い出になりました。

今回このプログラムに参加して、海外で過ごすことの楽しさに気づくことができました。シンガポールでは食

文化や言語も日本とは全く違い、慣れないこともたくさんありました。そこで楽しく過ごせたことは、これからの自分にとっていい経験になると思います。



多読推進の現状

制御情報工学科

伊藤 立治

平成26年度から3年計画で実施している多読推進プロジェクトの現状について報告します。まず今年度の推進対象クラスは、1、2年生全クラスと制御情報工学科全クラスです。対象学生には、1年

生の場合月3,000語、2年生以上は学年が一つ上がる毎に読書量を1,000語上乘せするよう指導しています。多読への積極参加を希望する学生は、毎週実施している読書会に参加しています。通学生中心の多読サークル(ERC)と寮生多読サークル(ERCB)の2つのグループが活動しています。

今年5月に全5年生が受験したTOEICでERCの5年生は全5年生の平均より200点高い点を取りました。またERCキャプテンの学生は、わずか半年間の留学でTOEICスコアを275点もアップさせるという驚異的な伸びを示しています。

このように多読推進の成果が出ています。多読推進は多読推進ワーキンググループ(WG)が母体となり実施しています。今年度から、鏡先生、吉田先生、亀谷先生、中井先生、伊藤(立)の5名体制となっています。今年度も毎週の読書会以外に英文多読

入門講座(8月)、夏期合宿e-CAMP(8月)、リーダーディングマラソン(10月~12月)、多読集中講座e-SEMINAR(3月)など、いろいろなプログラムを実施予定です。

寮生多読サークルの活動

商船学科2年

遠藤 正文

私は毎週水曜日の夜8時から8時30分の間に英語の指導者として寮生多読サークルを開催しています。

現在の参加メンバーは3学科1、2年生男女合わせて17名で、英語が得意な子も苦



寮内読書会の様子

手な子もいます。簡単な多読教材を使って、英語に親しみ、苦手意識を無くせるように、分かりやすい説明を心掛けています。

そのため、私自身も英語の理解力が上がっているように感じます。

英検上位資格の合格、TOEIC高得点、5年間での多読の累積語数100万語を目標に、これからも多読、英語の勉強を頑張っていこうと思います。

留学生自己紹介

制御情報工学科3年

フィンセン

こんにちは、フィンセンです。インドネシアから来ました。趣味は旅行や睡眠や音楽を聴くことです。高専では勉強だけでなく、自分で作った料理がまずいので調理も頑張りたいです。短かい自己紹介ですが友達になりましょう！
ところで、写真はインドネシアで撮ったものではありません。韓国のナミ島で撮ったものです。インドネシアでのいい写真はなかったのですみません。



学生生活動の紹介

ラグビー部の紹介

商船学科機関コース3年
尾寄 広夢

こんにちは、商船学科機関コース3年の尾寄広夢です。私はラグビー部の主将をしています。ラグビーは1チーム15人でプレーを行い、チームスポーツの中で一番フィールド内の人数が多い競技です。そのため、個人の力だけでなくチームワークが非常に重要になってきます。また、チーム内のポジションにより役割が大きく異なり、体の大きい小さいに関係なく、足が速い・力が強い・ボールを蹴るのが得意といった、様々なプレーヤーが活躍できます。



ラグビーは人数が多いだけでなくタックル、スクラムといった体と体が直接ぶつかり合うコンタクトスポーツであり、非常に激しくダイナミックなプレーが醍醐味です。激しいプレーで怪我をしないように、練習もそれなりに厳しい内容となり、ラグビー部員は汗と砂まみれになりながら日々、楽しく練習に取り組んでいます。

数年前までは部員がなかなか集まらず、大会に参加するのがやっとでしたが、ワールドカップでの活躍やオリンピック競技（7人制です）に採用されたこともあり部員が徐々に増え、昨年高専大会では東海地区で準優勝することができました。

今後も全国大会出場を目標に頑張っていくしますので、応援よろしくお願い致します。



ロボコン同好会の紹介

電子機械工学科4年

片浦 雄大

みなさんロボコンをご存知です

か？私たちがロボコン同好会は、ロボコンに出場するためのロボットの制作を主な活動としています。ロボコンとは、毎年10月ごろに開催されるNHK主催全国高等学校ロボットコンテストのことです。ロボコンは毎年競技課題が変わるので、それをクリアするためのアイデアを考え、実現していきます。

ロボットの制作には大まかに設計、加工、回路、プログラムの4つの作業があり、作業を分担して一つのロボットを作っていきます。複数人で一つのものを作り上げなければいけないので、学科や学年、上下関係に縛られることなくみんなで協力しあい作業を行います。意見の食い違いでの衝突も多々ありますが、協力してできたロボットが動く、その喜びはすぐ大きいです。今年も全国大会出場目指して頑張っています。今年もお願い致します。



高専ロボコン2015 東海北陸地区大会本番の様子
※左：奥田崇礼（現 M5）、右：片浦雄大（現 M4）

気象文化大賞

「高校・高専気象観測機器コンテスト」
で優秀賞・特別賞を受賞

従来の発想にとらわれない気象観測機器の開発を目指す「高校・高専 気象観測機器コンテスト」において、制御情報工学科4年生、及び2年生から構成される2チームがそれぞれ優秀賞と特別賞を受賞しました。

優秀賞を受賞した「傘の花畑」は、日常生活の「傘をさす」「傘を持っていく」という人の振る舞いから、雨が降っている場所を知らせたり、雨が振りそうな場所を予測したりするシステムを「スマホ」で実現した作品で、人が気象センサーになるというコンセプトが高く評価されました。特別賞を受賞した「波高船（ハコブネ）」は、高波や津波等の水位の上昇を早期に警戒するためのシステムを、安価な中古スマホを活用して作成した波高観測システムです。



優秀賞受賞チームメンバー
制御情報工学科4年生 大北 悠人 杉野 寿揮
制御情報工学科2年生 村山 由莉衣
特別賞受賞チームメンバー
制御情報工学科4年生 城 徳馬 宮原 渉

イマジンカップ 日本予選大会部門賞受賞！

制御情報工学科5年
山本 龍也

私たちのチームは「SaNaVi」というスマートフォンを用いた小型船舶の事故を防ぐシステムを開発しました。そして、マイクロソフトイマジンカップ日本大会のワールドシチズンシップ部門で見事、部門優勝を果たしました！

チームメンバー4人で日々システムの開発やプレゼンテーションの資料作りを頑張ってきた結果が評価されてとても嬉しかったです。

「SaNaVi」の発表をするだけではなく、たくさんの方々の企業の方々、マイクロソフトの社員様方とお話をさせていただき、有意義な時間を過ごすことができました。

チームメンバーや教官方、相談に乗っていた方々には頭が上がりません。部門優勝という結果を残すことができて本当によかったです。



Open Hack U 2015 最優秀賞

制御情報工学科4年
服部 魁人

私は、昨年11月に開催されたYahoo Japan 主催のコンテスト、Open Hack U 2015に参加しました。このコンテストに参加した理由は、限られた開発期間でどこまでやるのかを知りたかったからです。コンテスト開催から2週間前に5年生の奥田健斗君とチームを組み、動き出しました。

今までに誰もやったことのないタブーを破ろうと話し合い、iPhoneを投げてティンカーベルのように宙を舞う感覚を得られるアプリ『Tinker』を開発しました。

発表当日、審査員長から「これはアイデア勝ちだよね」とお褒めの言葉を頂くことができました。

このコンテストを通してプログラミング能力を大きく向上させることができました。これからもコンテストに参加し、経験を積んでいきます。



プレゼンを終えて一息ついたところ

生産技術コンテストで 2連覇

専攻科 生産システム工学専攻2年
服部 龍太郎

オムロン株式会社および高専機構・共同教育プロジェクトが主催の生産技術コンテストに2015年のクリスマスに専攻科三名からなるチームで参加しました。課題は、三軸のARMを使いボルトを指定された場所に運ぶことと、回転する紙に筆で文字を書くものでした。以前の大会で優勝した実績もあり鳥羽商船に対する周りの評価は自分たちが思っている以上に高く、期待というプレッシャーを強く感じました。そのため、周りの期待に応えるために努力を惜しまず、無事に2連覇することができました。今回チームで長期間にわたって一つの課題に取り組み、チームワークの大切さを学べたことは自分たちにとって貴重な経験となったと思います。



総合情報センターの紹介

総合情報センター長 白石 和章

昨年度末に、総合情報センター電算室、演習室1・演習室2、そして3号館2階演習室3の教育用電算システムのシステム更新を行いました。これで、演習室用のデスクトップPC153台も更新され、最新のOS活用教育に対応できる環境が整備されました。使用可能なアプリケーションは数値計算ソフトウェアMATLABや3D-CadソフトウェアSolidWorks等の昨年度教育用電算システムの資産を引き継ぎつつ、新たにVirtualBoxおよびVagrantからなる学習用仮想環境を実現しています。これにより、より高度なサーバ構築実習やネットワーク構築演習が可能になりました。

本システム更新に伴う変更点としては、演習室PCのログイン認証に高専機構共通認証システムを使用すること、無線LAN環境Tobafit Blackboard、進路支援システムそしてOffice365等と同じユーザー名とパスワードでログインする点があげられます。ただし、これらのパスワードは年1回の更新が義務付けられており、更新を行わないと前述のシステムが使えなくなってしまうので、パスワード更新期限の2週間前から更新を促すメールが届きますので、忘れずにパスワード更新を行ってください。



設備紹介

事務部長

菅野 敬也



4月に滋賀医科大学から着任しました。前任の大学では医学生の臨床実習のお世話や県内の大学コンソーシアムの連絡調整などの仕事をしていました。出身は兵庫県で、いくつかの大学、高専で勤務してきましたが、商船系は神戸商船大（現神戸大海事科学部）と弓削商船高専での勤務を合わせて3度目となり、懐かしく感じています。

朝、出勤途中に多くの学生が元気な挨拶を交わしてくれそうです。清々しさと、伝統校を感じました。そんな学生の未来のために、「材」育成をベースに新田校長の指導の下、石田副校長はじめみなさんと協働しながら、事務の立場で努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

一般教育科

山崎 賢二



4月1日付で鈴鹿工業高等専門学校から高専間教員交流制度で参りました。山崎賢二と申します。2年間の任期でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。授業は、「理科総合（地学）」、「化学」、「環境化学」を担当しております。校内ではいつも白衣姿でございますので、見つけていただきやすいと思っております。私と高専との縁は深く、和歌山県御坊市にあります和歌山高専を卒業し、その後豊橋技術科学大学で多くの高専生と繋がりを持ち、鈴鹿高専に勤務、今また鳥羽商船高専とのご縁をいただきました。このご縁を大切に、仕事はもとよりですが、サミット開催の名誉にあずかったここ伊勢志摩の地を楽しみたいと思っております。

テクノセンター技術職員

三重野 崇亮



本年4月16日付でテクノセンター技術職員に着任いたしました。三重野崇亮と申します。私は平成22年度に本校の制御情報工学科を卒業し、本年3月まで地元伊勢の工場に勤務しておりました。縁あって母校に勤務できることを光栄に思っております。本校OBであることは学生にとっても身近に感じてもらえるのではないのでしょうか。実験実習では親近感を活かして学生と積極的に関わっていきたいと思っております。

まだまだ未熟ではありますが、よろしくお願い致します。

テクノセンター技術職員

島田 周作



平成28年4月よりテクノセンターの技術職員として勤務させて頂くことになりました。

富山高専専門学校を卒業し、民間会社でプラント設備の設計業務などをしてきましたが、ものづくりと高専独特の雰囲気忘れられず卒業して2年で戻ってきてしまいました。

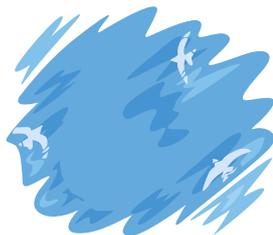
前職で学んだ設計製図や安全に関する知識を活かし、3Dプリンターで実物モデルを作るなどしながら、ものづくりの楽しさを学生に伝えられればと考えています。

どうぞ宜しくお願い致します。

一般教育科

西川 雅堂

4月より一般教育科に赴任いたしました。西川雅堂です。高専―技科大間人交流制度にて昨年まで2年間、豊田工業高専に勤務しておりました。豊田高専の特色は、寮生の多さと留学する学生の多さです。赴任した1年目で電気電子システム工学科2年の指導教員（担任）をさせていただきましたが、夏に留学から帰ってくる学生が10人ほどいました。50人を超えるクラスで大変でしたが、基本的に自分で考え行動する学生が多く、何もわからない私を助けてくれました。先生のことを下の名前で呼ぶこともありますが、場をわかまえて先生との距離をとって接しているという感じます。校内を歩いてもどの学年の子も挨拶してくれ、気持ちのいい2年間を過ごさせていただきました。



教職員の人事異動

(平成28年1月1日付け)

○昇任

総務課施設係長 竹内 晃輔 (総務課施設係施設主任)

○採用

総務課施設係 みやまき まさし 宮崎 政志

(平成28年2月29日付け)

○退職

木村 佳嗣 (テクノセンター技術職員)

(平成28年3月31日付け)

○定年退職

豆本 博一 (事務部長)
塚原 祐子 (学生課長)
廣地 武郎 (電子機械工学科教授)
西世古悌治 (一般教育講師)
長谷川秀文 (テクノセンター技術長)

○雇用期間満了

大石 哲男 (電子機械工学科嘱託教授)

○辞職

境 善行 (商船学科准教授)

○転出

林 浩史 (総務課総務係長)

○任期満了

宮嶋 恭子 (総務課企画・地域連携係有期雇用職員)
ブレイ珠子 (学生課教務係有期雇用職員)

(平成28年4月1日付け)

【教員】

○併任

教務主事 石田 邦光 (再)
学生主事 坂牧 孝規 (再)

○昇任

制御情報工学科 教授 溝口 卓哉
一般教育科 教授 鈴木 聡

○転入 (高専間配置換 (人事交流) を含む)

一般教育科 教授 やまきま けんじ 山崎 賢二 (鈴鹿高専教授)
一般教育科 准教授 にしかわ まさたか 西川 雅堂 (豊田高専准教授)

○採用 (再雇用)

電子機械工学科 嘱託教授 廣地 武郎
一般教育科 嘱託講師 西世古悌治

○併任等

テクノセンター長 鈴木 治 (新)
海事システム学専攻主任 窪田 祥朗 (新)
副総合情報センター長 脇坂 賢 (再)
教務主事補 瀬田 広明 (新)
学生主事補 林 浩一 (新)
寮務主事補 西川 雅堂 (新)

○転出 (高専間配置換 (人事交流) を含む)

鈴鹿高専 澤田 圭樹 (一般教育科)
豊田高専 都築 啓太 (制御情報工学科)

【職員】

○昇任

学生課専門員 (教務担当) 東川さ 桑子 (学生課教務係長)
総務課財務・経理係財務経理主任
中井 清吾 (総務課財務・経理係)
学生課学生生活係学生生活主任
小竹 悠哉 (学生課学生生活係)

○転入 (高専間配置換 (人事交流) を含む)

事務部長 すがの のりや 菅野 敬也 (滋賀医科大学学生課長)
学生課長 うめむら たかひみ 梅村 智文 (岐阜高専学生課長)
総務課総務係長 いのうえ のぶひろ 井上 暢浩
(三重大学医学・病院管理部総務課総務係主任)
学生課教務係長 まえだ こう 前田 剛
(鈴鹿工業高等専門学校学生課主任)
総務課人事労務係 ひろた まりこ 廣田真理子
(鈴鹿工業高等専門学校総務課係員)

○採用 (新規採用)

学生課教務係 のま みゆ 野間 己由

○併任

学生課学生生活係長 山本 敬児 (学生課課長補佐)

○配置換

学生課図書係長 柄田 むつみ (総務課図書係長)
学生課図書係図書主任 北山 里見 (総務課図書係図書主任)
学生課図書係非常勤職員 濱口 典子 (総務課図書係非常勤職員)

○転出 (高専間配置換 (人事交流) を含む)

津山高専学生課寮務係長 別宮 剛 (学生課学生生活係長)
鈴鹿高専総務課 山村 優美 (総務課人事労務係)
鈴鹿高専学生課 川合 洋平 (学生課教務係)

【技術職員】

○昇任

テクノセンター技術長 毛利 純一
(テクノセンター技術専門職員)

○採用 (新規採用)

テクノセンター技術職員 島田 周作

○採用 (再雇用)

テクノセンター技術職員 長谷川 秀文

(平成28年4月16日付け)

○採用 (新規採用)

テクノセンター技術職員 みえの そうすけ 三重野 崇亮

平成28年度 入学式

麗らかな春の日差しの下、4月5日(火)本校第2体育館において平成28年度本科並びに専攻科の入学式を挙行政いたしました。

式では、新田校長の入学許可の後、式辞で「新しい社会づくりに貢献できる技術について、学校での学びを活かしてほしい。」と述べられました。

在校生代表から歓迎の辞の後、新入生代表から宣誓が、専攻科入学生代表生産システム工学専攻代表から挨拶があり、式は厳かのうちに終了いたしました。



SLUSH

平成27年11月10日(火)～11月13日(金)に専攻科生産システム工学専攻2年生の島影瑞希さんが、フィンランドのヘルシンキで行われたSLUSH (Helsinki, Finland)に参加しました。SLUSHとは起業家によるプレゼンテーションイベントであり、島影さんは学生の観点から起業教育の高専教育への取り組みに関する情報収集と調査を行いました。



公開講座・出前授業実施

公開講座 サイテクラッド in 鳥羽商船 2016

講座名	開催日
鳥羽丸体験航海「伊勢湾を調べよう」	7月26日(火) 13:00～16:00
ソーラーで動くおもちゃ工作	8月19日(金) 9:30～12:00
手作り振動型発電機を作ってLEDを光らそう	8月23日(火) 9:00～12:00
電気を測ってオームの法則を確認しよう	8月25日(木) 14:00～16:00
「INNOVATOR'S SUMMER」in 鳥羽商船 いちごジャムでマイコンプログラミング	8月26日(金) 10:00～16:00 8月27日(土) 10:00～16:00
3Dプリンタでオリジナルスマートフォンスタンド を作ってみよう	8月29日(月) 9:30～15:30
おもしろ理科実験	9月4日(日) 9:00～12:00

教養講座

英文多読入門講座	8月1日(月) 13:00～15:00
入試対策講座(仮称)	11月頃予定

その他の講座

講座名	開催日
鳥羽商船高専の練習船に乗って 体験航海と造船所見学	7月22日(金)
みえアカデミックセミナー	8月4日(木)
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海(四日市港まつり)	8月7日(日)
みんなでたのしく遊ぼう!ロボット教室	10月
練習船「鳥羽丸」による名古屋港PR活動 及び一般公開	11月
もうすぐクリスマス 遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話	12月下旬

秋の公開講座

講座名	開催日
小学生のためのバレーボール教室	未定

出前授業

体験型学習

講座名	担当学科
機関士のしごと体験	商船学科・テクノセンター
物を冷やす仕組み	商船学科
オリジナルTシャツ・バッグ作成講座	電子機械工学科・制御情報工学科
食品の加熱って?～電気を利用したヒータの製作～	商船学科
LEGOロボットを作ろう(初級)	電子機械工学科・制御情報工学科
LEGOロボットを作ろう(機械)	電子機械工学科
LEGOロボットを作ろう(情報)	制御情報工学科
オリジナル下敷きを作ろう!	制御情報工学科
風に向かって走る車を作ろう	商船学科
合成写真を作って遊ぼう	電子機械工学科
ヒューマノイドアニメーションを作ってみよう	電子機械工学科
3 DCGを体験してみよう(初級編)	電子機械工学科
3 DCGを体験してみよう(応用編)	電子機械工学科
3 DCGアニメーションを体験してみよう	電子機械工学科
クリップモーターで車は走るか?	電子機械工学科

教養講座

トランシーバを使ってみよう	商船学科
---------------	------

編集後記

学校だより第84号をお届け致します。

本号は、本校学生の国際交流やクラブ・サークルにおける活動、プログラミングコンテストをはじめとする様々なコンテストでの目覚ましい活躍の紹介を中心とした内容でお送りしております。社会の要請に応じて進化する鳥羽商船高等専門学校の今の姿をお伝えできれば幸いです。本号におきましても、多くの方に記事をおよせ頂きました。有難うございました。(山下記)